もうひとつの第二次世界大戦
—日本人軍人ないし軍属と欧米女性との関係を中心に
Another World War II: The Relationship between Japanese Military Personnel and European Women during the War

プロジェクト代表者：有賀 夏紀（教養学部・教授）
Natsuki Aruga (Professor, Faculty of Liberal Arts)

１　本研究のテーマと目的

本研究は、第二次世界大戦下の日本軍占領地域における日本人軍人・軍属と欧米女性との関係をテーマにし、二つのことを目的としている。第一には、戦時下および戦後における国際間の性の関係、特に占領軍兵士および軍属と占領地域の女性の関係を明らかにする一般的理論的枠組をつくること、第二は、このような関係の具体的事例について、これまであまり研究されて来なかった日本人の軍人・軍属と欧米の女性との関係の実態をつかむことにある。すなわち、理論面および実証面の両方から問題を明らかにし、第二次世界大戦のこれまでほとんど明らかにされてこなかった側面、つまり「もうひとつの第二次世界大戦」を描き出すことが目的である。これにより、第二次世界大戦の全体像に近づくだけでなく、より一般的にジェンダー、政治支配関係、人種関係、ヨーロッパの植民地支配、それを受け継いだ形の日本軍による占領地域支配の性格を知ることにもなると考える。

２　研究の経過

第一の理論面に関しては、ジェンダー、軍隊、人種・民族、戦時期･戦後期のアメリカやヨーロッパ、アジアに関する研究書を読み、考察した。特に、Cynthia Enloe, Yuki Tanaka などの研究が理論的枠組みを作る上での基礎になりそうであるが、まださらに、ヨーロッパ、アジア（特にインドネシア）の政治史、社会史に関する文献の研究を行う必要がある。これらの分野での国内外の研究成果は多く、現在は文献を渉猟中である。この作業を経た上で理論的枠組の構築を目指したい。

第二の実証的側面に関しては、対象地域は第二次大戦中、軍事占領下に置かれた地域であり、日本だけでなく広範にわたるが、当面は東南アジア、特にインドネシアに限定する。出発点として、戦地インドネシアにおいて第二次世界大戦中、日本人軍医の男性と結婚した、オーストリア人女性（日本国籍取得）の面接･聞き取り調査を行い非常に貴重な情報を得た。この女性の生涯を追うことで、ヨーロッパ、アジアにまたがるグローバルな視点での、ジェンダーと軍隊のユニークな歴史を描き出すことが出来ると、聞き取り調査の内容から感じている。まだ、聞き取りは進行中であり、完結までには時間がかかりそうである。

３　研究の成果

これまで間接的には本研究に関係するジェンダーと軍隊の研究を行い、成果も発表してきたとはいえ、本研究はまったく未知のテーマに踏み込んだものであり、緒に就いたばかりで

ある。まだ、直接このテーマに関する論文や著書を発表するには至っていない。

間接的に本研究と関係するものとしては、著書『個人と国家のあいだ』(ミネルヴァ書房　２００７年６月刊行）の編集および序章「組織からみるアメリカ」の執筆を行った。また、ジェンダーに関する原典の翻訳および解説「女らしさの神話からの脱却」古矢旬編『アメリカ的価値観の変容 1960 年代―20 世紀末』（東京大学出版会　2006 年）の執筆を行った。

なお、本年度は、科学研究費による「ジェンダー・階級・人種からみたアメリカ占領軍下日本における買売春―ＧＩの証言から」の研究期間の最終年度であり、研究補助金６０万円（三年間の総額２７０万円）を取得し、研究成果報告書を提出した。この報告書に収録した論文は本研究のテーマに深く関連している。